

6. 実習指導者研修の開発と実施

6.1. 実習指導者研修の内容

6.1.1. 狙い

実習指導者研修は、施設実習の指導担当者を対象とする研修プログラムである。研修の狙いは、本事業で策定した『実習評価基準』の内容、評価項目、評価レベルなどについて理解すると共に、この基準による実習評価をサポートするツール「実習評価支援システム」の機能と操作方法を理解することである。これにより、『実習評価基準』と「実習評価支援システム」を活用した実習評価の実践方法を身に付けることを目標とする。

6.1.2. 内容

実習指導者研修の内容は以下の通りで、研修の標準実施時間数は3時間の想定である。

図表 6-1 実習指導者研修の内容

<p>■講義と演習</p> <ol style="list-style-type: none">1. 実習指導者研修の狙い2. 実習評価基準の概要3. 実習評価基準の内容－評価項目と評価レベル4. 実習評価基準による評価演習 <p>■講義とPC実習</p> <ol style="list-style-type: none">1. 実習評価支援システムの概要2. 実習評価支援システムの基本操作3. 実習評価支援システムの画面構成4. 実習評価支援システムの操作手順5. 評価レベルの設定6. 重みの設定7. 評価の入力<ol style="list-style-type: none">1) 評価項目の選定2) 評価結果の選定3) 自動集計の確認4) 評価の一括入力8. 評価結果の保存9. 実習評価支援システムによる評価実習
--

6.1.3. 教材

実習指導者研修 説明資料

1

CONTENTS

- 実習指導者研修の狙い
- 本事業の概要
- 実習評価基準の概要
- 実習評価基準の内容 ～ 評価項目、評価レベル ～
- 実習評価支援システムの概要
- 実習評価支援システムの基本操作
- 実習評価支援システムの画面構成
- 実習評価支援システムの操作手順
- 評価レベルの設定
- 重みの設定
- 評価の入力
 - 評価項目の選定
 - 評価結果の選定
 - 自動集計の確認
 - 評価の一括入力
- 評価結果の保存

2

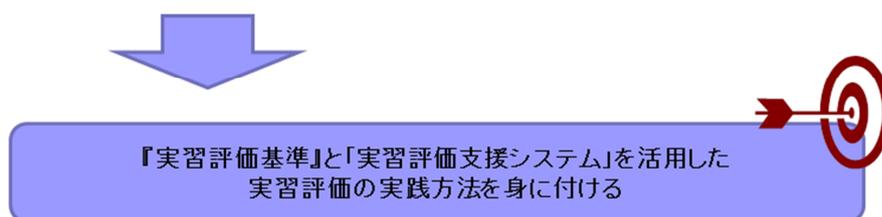
実習指導者研修の狙い

■ 『実習評価基準』の理解

- 平成23年度「介護実習評価の基準及び指導者研修事業」(以下、本事業とする)で開発した『実習評価基準』の内容、評価項目、評価レベルなどについて理解する。

■ 「実習評価支援システム」の理解

- 『実習評価基準』による実習評価を支援するシステムの基本的な機能、操作方法について理解する。



3

本事業の概要

■ 取り組みの内容

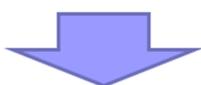
- 実習評価の実態調査の実施
 - 施設、養成校を対象に施設実習に係る実態調査を実施
 - 『実習評価基準』策定のための基礎情報を整備
- 『実習評価基準』の策定
 - 評価・指導すべき能力細目とその達成目標レベルの明確化
- 「実習評価支援システム」の開発
 - 『実習評価基準』による実習評価を支援するシステムの開発
- 実習指導者研修の開発と実施
 - 「実習評価支援システム」を活用した実習評価の実践に関する研修の開発と実施

4

『実習評価基準』の概要

■ 策定の狙い

- 施設実習における標準的な評価基準の明確化
- 施設実習における育成目標の明確化
- 施設実習の指導担当者の指導力の強化



実習指導者の経験などの属性に依らない指導・評価の促進
施設実習の質の向上

5

『実習評価基準』の内容

■ 「実習Ⅰ」の評価項目

評価項目		A	B	C	D
1. 実習態度					
1.1 多様な生活の場の理解	1)入所者の一日及び一週間の生活を理解できる 2)施設の制度上の種別を理解できる				
1.2 基本的態度	1)利用者やスタッフに対する礼儀は適切である 2)服装、身だしなみは適切である 3)周囲の状況に応じて表記りができる 4)指導者に対する態度は適切である 5)時間を守ることができる 6)利用者と適切なコミュニケーションがとれる 7)積極的に質問ができる				
2. 介護過程の展開					
2.1 利用者に対する情報収集	1)利用者や家族の生活に対する意向を理解できる 2)利用者の心身機能・身体状況・健康状態を理解できる 3)利用者を取り巻く物的環境（衣食住・福祉用具等）、人的環境（家族、友人、職員等）を理解できる 4)利用者の人生や生活の特別な背景（ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等）について理解できる				
3. 実習記録					
3.1 報告・記録	1)求められた内容を適切に記述できる 2)自己の考えが表現できる 3)記録等の提出期限を守ることができる 4)口頭報告の時期・態度が適切である				
4. 生活支援技術					
4.1 入浴介助	1)入浴前の確認ができる 2)状態に合わせて衣服の着脱介助ができる 3)身体を洗う介助ができる 4)浴槽に入る介助ができる 5)清拭介助ができる				
4.2 食事介助	1)食事前の準備を行うことができる 2)座位で食事をする際の姿勢の介助ができる 3)寝たままで食事をする際の姿勢の介助ができる 4)食事介助ができる 5)口腔ケアの介助ができる				
4.3 排泄介助	1)排泄の準備を行うことができる 2)状態に合わせて排泄介助ができる 3)おむつ交換介助ができる				
4.4 移動・移乗介助	1)起居の介助ができる 2)状態に合わせて移動・移乗介助ができる 3)車いすの移動介助ができる 4)杖歩行の介助ができる				
5. その他					
5.1 地域包括ケアの評価	1)地域包括ケアの仕組み・意義や役割を理解できる				

6

『実習評価基準』の内容

■ 「実習Ⅱ」の評価項目(1/2)

評価項目		A	B	C	D
1. 実習態度					
1.1 コミュニケーション	1 尚聴共感と基本的なコミュニケーションができる				
	2 利用者・家族とのコミュニケーションができる 3 職員とのコミュニケーションができる				
1.2 基本的態度	1 利用者やスタッフに対する礼儀は適切である				
	2 服装、身だしなみは適切である				
	3 周囲の状況に応じて表記ができる				
	4 指導者に対する態度は適切である				
	5 時間を守ることができる				
	6 利用者と適切なコミュニケーションがとれる				
	7 積極的に質問ができる				
2. 介護過程の展開					
2.1 情報収集	1 利用者や家族の生活に対する意向を理解できる				
	2 利用者の心身機能・身体状況、健康状態を理解できる				
	3 利用者の障害特性を理解できる				
	4 利用者を取り巻く物的環境（衣食住・福祉用具等）、人的環境（家族、友人、職員等）を理解できる				
	5 利用者の人生や生活の特別な背景（ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等）について理解できる				
2.2 すべてのプロセスの実施 (1) 個別介護計画の立案	1 得られた情報を整理、統合することができる				
	2 課題を明確にすることができる				
	3 個別介護計画において、目標を設定できる				
	4 個別介護計画において、目標を達成するための具体的支援内容（担当者、頻度、期間を含む）を設定できる				
2.3 すべてのプロセスの実施 (2) 個別介護計画に基づく支援の実施・モニタリング	1 ★ 個別支援計画やケアカンファレンスの意図や位置付けを理解し、機会があれば参加し、その状況について理解できる				
	2 チームにおける個別介護計画の実施状況を理解できる				
2.4 すべてのプロセスの実施 (3) 個別介護計画の評価	1 評価の仕方や方法を理解できる				
	2 個別介護計画の目標に対する到達度を評価できる				
	3 評価の結果についての見直しや代替案を理解できる				
3. 実習記録					
3.1 報告・記録	1 求められた内容が記述できる				
	2 自己の考えが表現できる				
	3 記録等の提出期限を守ることができる				
	4 口頭報告の時期・態度が適切である				

7

『実習評価基準』の内容

■ 「実習Ⅱ」の評価項目(2/2)

4. 生活支援技術					
4.1 入浴介助	1 入浴前の確認ができる				
	2 状態に合わせた衣服の着脱介助ができる				
	3 身体を洗う介助ができる				
	4 浴槽に入る介助ができる				
	5 洗剤介助ができる				
4.2 食事介助	1 食事前の準備を行うことができる				
	2 座位で食事をする際の姿勢の介助ができる				
	3 限りまで食事をする際の姿勢の介助ができる				
	4 食事介助ができる				
	5 口離りケアの介助ができる				
4.3 排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる				
	2 状態に合わせた排泄介助ができる				
	3 おむつ交換介助ができる				
4.4 移動・移乗介助	1 起屋の介助ができる				
	2 状態に合わせた移動・移乗介助ができる				
	3 車いすの移動介助ができる				
	4 昇降機の介助ができる				

8

『実習評価基準』の内容

■ 評価レベル

- 「自ら実行できる」から「できない」までの四段階評価
- 評価レベルへの配点
- 評価項目ごとの集計、全評価項目の総合評価
- 評価項目ごとの「重み」の設定

評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度			
2. 介護過程の展開			
3. 実習記録			
4. 生活支援技術			
5. その他			
合計			

評価レベルと配点
A(点) 自ら実行できる
B(点) 指示を受け理解し実行できる
C(点) 指示を受けながら実行できる
D(点) できない

9

「実習評価支援システム」の概要

■ 「実習評価支援システム」とは

- 『実習評価基準』による実習評価を支援するシステム

■ 主な機能

- ユーザー識別
- 評価項目の提示
- 評価レベル、重みの設定
- 評価結果の自動集計と提示
- 評価結果の保存・管理

10

「実習評価支援システム」の基本操作

■ ログイン・ログアウト

介護福祉士 実習 I 評価項目

■ユーザー名

■パスワード

介護福祉士 実習 I 評価項目

■ユーザー名

esprit

点 × 重み合計: 0

評価結果	点	点×重み	重み	評価レベル	配点
1. 実習態度	0	0	0.0	A 自ら実行できる	0
2. 介護過程の展開	0	0	0.0	B 指示を受け理解し実行できる	0
3. 実習記録	0	0	0.0	C 指示を受けながら実行できる	0
4. 生活支援技術	0	0	0.0	D できない	0
5. その他	0	0	0.0		

評価項目	A	B	C	D
+ 1. 実習態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 2. 介護過程の展開	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 3. 実習記録	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 4. 生活支援技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
- 5. その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

11

「実習評価支援システム」の画面構成

■ 画面構成

介護福祉士 実習 I 評価項目

■ユーザー名

esprit

点 × 重み合計: 0

評価結果	点	点×重み	重み	評価レベル	配点
1. 実習態度	0	0	0.0	A 自ら実行できる	0
2. 介護過程の展開	0	0	0.0	B 指示を受け理解し実行できる	0
3. 実習記録	0	0	0.0	C 指示を受けながら実行できる	0
4. 生活支援技術	0	0	0.0	D できない	0
5. その他	0	0	0.0		

評価項目	A	B	C	D
+ 1. 実習態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 2. 介護過程の展開	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 3. 実習記録	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 4. 生活支援技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
- 5. その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

12

「実習評価支援システム」の操作手順

- ① A～Dの評価レベルの配点を設定
- ② 評価項目(大項目)の重みを設定
- ③ 評価項目ごとに評価を入力(詳しくは後ほど)
- ④ システムが自動集計した結果を確認
- ⑤ 入力した内容を保存

介護福祉士 実習Ⅰ 評価項目
 ■ユーザー名
 esprit

点×重み合計:0

評価結果	点	点×重み	重み	評価レベル	配点
1. 実習態度	0	0	0.0	A 自ら実行できる	0
2. 介護過程の展開	0	0	0.0	B 指示を受け理解し実行できる	0
3. 実習記録	0	0	0.0	C 指示を受けながら実行できる	0
4. 生活支援技術	0	0	0.0	D できない	0
5. その他	0	0	0.0		

評価項目	A	B	C	D
+ 1. 実習態度	○	○	○	○
+ 2. 介護過程の展開	○	○	○	○
+ 3. 実習記録	○	○	○	○
+ 4. 生活支援技術	○	○	○	○
- 5. その他	○	○	○	○

保存
ログアウト

13

評価レベルの設定

■ 評価レベルの設定

- A～Dの各レベルのボックスに、マウスカーソルを移動させ配点を入力
- 各レベルの配点は利用者が自由に設定してかまわない

評価レベル	配点
A 自ら実行できる	0
B 指示を受け理解し実行できる	0
C 指示を受けながら実行できる	0
D できない	0

⇒

評価レベル	配点
A 自ら実行できる	5
B 指示を受け理解し実行できる	3
C 指示を受けながら実行できる	0
D できない	0

14

重みの設定

■ 重みの設定

- 1から5の各評価項目の「重み」のボックスに、マウスカーソルを移動させて重みの値を入力
- 重みの値は利用者が自由に設定してかまわない

評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度	0	0	0.0
2. 介護過程の展開	0	0	0.0
3. 実習記録	0	0	0.0
4. 生活支援技術	0	0	0.0
5. その他	0	0	0.0



評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度	0	0	0.0
2. 介護過程の展開	0	0	1.5
3. 実習記録	0	0	1
4. 生活支援技術	0	0	2
5. その他	0	0	1

15

評価の入力

■ 評価項目を選択

- ① 評価項目名の左側の「+」をマウスで左クリック
- ② 評価項目の中の中項目が展開される

評価項目	A	B	C	D
+ 1. 実習態度				
+ 2. 介護過程の展開				
+ 3. 実習記録				
+ 4. 生活支援技術				
- 5. その他				



評価項目	A	B	C	D
- 1. 実習態度				
+ 1.1 多様な生活の場の理解				
+ 1.2 基本的態度				
+ 2. 介護過程の展開				
+ 3. 実習記録				
+ 4. 生活支援技術				
- 5. その他				

16

評価の入力

■ 評価項目を選択

- ① 展開された評価項目名の左側の「+」をマウスで左クリック
- ② 評価項目の中の小項目が展開される

評価項目	A	B	C	D
[-] 1. 実習態度				
[-] 1.1 多様な生活の場の理解				
[+] 1.2 基本的態度				
[+] 2. 介護過程の展開				
[+] 3. 実習記録				
[+] 4. 生活支援技術				
[-] 5. その他				



評価項目	A	B	C	D
[-] 1. 実習態度				
[-] 1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる				
2) 施設の制度上の種別を理解できる				
[+] 1.2 基本的態度				
[+] 2. 介護過程の展開				
[+] 3. 実習記録				
[+] 4. 生活支援技術				
[+] 5. その他				

17

評価の入力

■ 評価結果を選択

- ① 評価項目のA～Dのうち、該当する箇所(ラジオボタン)をマウスで左クリック

評価項目	A	B	C	D
[-] 1. 実習態度				
[-] 1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる				
2) 施設の制度上の種別を理解できる				
[+] 1.2 基本的態度				
[+] 2. 介護過程の展開				
[+] 3. 実習記録				
[+] 4. 生活支援技術				
[+] 5. その他				



評価項目	A	B	C	D
[-] 1. 実習態度				
[-] 1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる		<input checked="" type="radio"/>		
2) 施設の制度上の種別を理解できる			<input checked="" type="radio"/>	
[+] 1.2 基本的態度				
[+] 2. 介護過程の展開				
[+] 3. 実習記録				
[+] 4. 生活支援技術				
[+] 5. その他				

18

評価の入力

■ 自動集計を確認

- ① 評価項目に評価を入力したら自動集計を確認

評価結果	点	点×重み	重み	評価レベル	配点
1. 実習態度	8	16	2.0	A 自ら実行できる	5
2. 介護過程の展開	0	0	1.0	B 指示を受け理解し実行できる	3
3. 実習記録	0	0	1.5	C 指示を受けながら実行できる	1
4. 生活支援技術	0	0	1.0	D できない	0
5. その他	0	0	1.0		

評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる	●	○	○	○
2) 施設の制度上の種別を理解できる	○	●	○	○
1.2 基本的態度	○	○	○	○
2. 介護過程の展開	○	○	○	○
3. 実習記録	○	○	○	○
4. 生活支援技術	○	○	○	○
5. その他	○	○	○	○

19

評価の一括入力

■ 評価を一括で入力

- ① 評価項目(中項目)単位で評価を入力
- ② 中項目の中のすべての小項目の評価となる

評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
1.1 多様な生活の場の理解	●	○	○	○
1.2 基本的態度	○	○	○	○
2. 介護過程の展開	○	○	○	○
3. 実習記録	○	○	○	○
4. 生活支援技術	○	○	○	○
5. その他	○	○	○	○



評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる	●	○	○	○
2) 施設の制度上の種別を理解できる	○	●	○	○
1.2 基本的態度	○	○	○	○
2. 介護過程の展開	○	○	○	○
3. 実習記録	○	○	○	○
4. 生活支援技術	○	○	○	○
5. その他	○	○	○	○

20

評価の一括入力

■ 評価を一括で入力

- ① 評価項目(大項目)単位で評価を一括で入力することもできる

評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
+ 1.1 多様な生活の場の理解	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 1.2 基本的態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 介護過程の展開	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 実習記録	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 生活支援技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
+ 1.1 多様な生活の場の理解	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 1.2 基本的態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 介護過程の展開				
- 2.1 利用者に対する情報収集				
1 利用者や家族の生活に対する意向を把握できる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 利用者の心身機能・身体状況、健康状態を把握できる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 利用者を取り巻く物的環境(食品、薬、福祉用具等)、人的環境(家族、友人等の支援や態度)、利用している制度について把握できる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 利用者の人生や生活の特別な背景(ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等)について把握できる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 実習記録	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 生活支援技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

21

評価結果の保存

■ 評価結果の保存

介護福祉士 実習 I 評価項目

■ ユーザー名

esprit

点×重み合計: 74

評価結果	点	点×重み	重み	評価レベル	配点
1. 実習態度	8	16	2.0	A 自ら実行できる	5
2. 介護過程の展開	20	20	1.0	B 指示を受け理解し実行できる	3
3. 実習記録	12	18	1.5	C 指示を受けながら実行できる	1
4. 生活支援技術	17	17	1.0	D できない	0
5. その他	3	3	1.0		

評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
- 1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 施設の制度上の種別を理解できる	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
+ 1.2 基本的態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 介護過程の展開	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 実習記録	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 生活支援技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. その他	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

保存

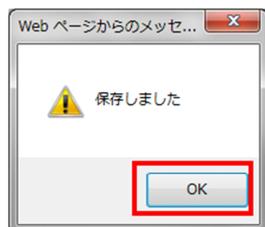
ログアウト

22

評価結果の保存

■ 評価結果の保存

- 保存処理が完了すると「保存しました」のメッセージを表示
- 「OK」ボタンをクリック



23

ログアウト

■ ログアウト

介護福祉士 実習 I 評価項目

■ ユーザー名

esprit

点×重み合計: 74

評価結果	点	点×重み	重み	評価レベル	配点
1. 実習態度	8	16	2.0	A 自ら実行できる	5
2. 介護過程の展開	20	20	1.0	B 指示を受け理解し実行できる	3
3. 実習記録	12	18	1.5	C 指示を受けながら実行できる	1
4. 生活支援技術	17	17	1.0	D できない	0
5. その他	3	3	1.0		

評価項目	A	B	C	D
1. 実習態度				
1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 施設の制度上の種別を理解できる	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1.2 基本的態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 介護過程の展開	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 実習記録	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 生活支援技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. その他	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

保存

ログアウト

24

6.2. 実習指導者研修の実施

6.2.1. 実施の概要

実習指導者研修プログラムの開発後、施設の実習指導担当者を対象に実習指導者研修を実施した。その概要は以下の通りである。

実施した主な内容は『実習評価基準』の解説と「実習評価支援システム」の機能と操作の解説、評価入力の実習などである。実施後には、受講者から『実習評価基準』と「実習評価支援システム」に対する評価、改善要望などの聞き取りを行い、評価基準及びシステムの有効性・有用性などについて検証すると共に、今後の改良・拡張に資する基礎情報の集約を試みた。

図表 6-2 実施の概要

日時	平成 24 年 3 月 27 日（火） 15:00～17:00
場所	社会福祉法人真寿会 特別養護老人ホーム 真寿園 (埼玉県川越市安比奈新田 292-1)
対象者	真寿園の施設実習の担当者 2 名
目的	■『実習評価基準』の内容、評価項目、評価レベルなどを理解する ■「実習評価支援システム」の機能、操作方法などを理解する
内容	1. 実習指導者研修の狙い 2. 実習評価基準の概要 3. 実習評価基準の内容－評価項目と評価レベル 4. 実習評価支援システムの概要 5. 実習評価支援システムの基本操作 6. 実習評価支援システムの画面構成 7. 実習評価支援システムの操作手順 8. 評価レベルの設定 9. 重みの設定 10. 評価の入力 11. 評価結果の保存 12. 実習評価支援システムによる評価実習

6.2.2. 検証の結果

研修実施後の検証では、「実習評価支援システム」の操作性と機能という観点から修得・理解の度合いや意見・感想を確認する聞き取りを行った。また、『実習評価基準』については、評価項目や評価レベルなどの妥当性・有効性などについて意見・感想を求めた。

(1) システム全体の操作性

システムを使い始めたときの第一印象について、両名とも「操作にすぐに慣れた」「操作は簡単だと思った」という回答であった。対象者がいずれも頻繁にプライベートでPCを使っていたこともあってか、マウス操作を基本とするシステムのオペレーションは簡単と感じられたようだ。但し、両名共にシステムの操作マニュアルは必要という意見であることから、今後の普及展開に向けてオンラインマニュアルなどを利用できるようにすることが望まれる。

(2) 評価レベルの配点設定の操作

評価レベルの配点を設定する操作については、「簡単」「楽」という意見と、「普通」という意見に分かれた。「普通」と回答した受講者からは「Enter キーを押したら画面が戻ってしまっ。1つ1つ入力するのが少し手間となってしまう気がしました」という指摘・感想が寄せられた。

図表 6-3 評価レベルの設定

評価レベル	配点
A 自ら実行できる	5
B 指示を受け理解し実行できる	3
C 指示を受けながら実行できる	0
D できない	0

(3) 重み設定の操作

重みの設定についても「簡単」「楽」と「普通」に意見は分かれたが、操作そのものは難しくなかったようだ。

図表 6-4 重みの設定

評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度	0	0	0.0
2. 介護過程の展開	0	0	1.5
3. 実習記録	0	0	1
4. 生活支援技術	0	0	2
5. その他	0	0	1

(4) 評価の入力の操作

図表 6-5 評価の入力

■評価項目		A	B	C	D
-	1. 実習態度				
-	1.1 多様な生活の場の理解				
	1)入所者の一日及び一週間の生活を理解できる	○	○	○	○
	2)施設の制度上の種別を理解できる	○	○	○	○
+	1.2 基本的態度	○	○	○	○
+	2. 介護過程の展開	○	○	○	○
+	3. 実習記録	○	○	○	○
+	4. 生活支援技術	○	○	○	○
+	5. その他	○	○	○	○

評価の入力に関しては両名から「簡単」「楽」という意見が得られた。評価の入力はマウス操作のみで行えることもあり、受講者による評価の入力操作は特に問題もなくスムーズに行われた。

(5) 自動集計機能

入力した評価の自動集計機能については、いずれの受講者からも「便利」「評価結果として見やすい」「使いやすい」という意見を得た。研修で使用した評価基準「実習Ⅰ」には、35の評価項目が設定されているが、システムの自動集計によって、手動による計算という利用者の労力を大幅に軽減している。

図表 6-6 自動集計・重みの設定

評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度	27	54	2.0
2. 介護過程の展開	20	20	1.0
3. 実習記録	12	24	2.0
4. 生活支援技術	51	76	1.5
5. その他	5	5	1.0

(6) 重みの設定機能

重み設定に関しては「便利」と「普通」に受講者の意見は分かれた。機能そのものは肯定的に受け入れられたようだが、どの程度の重みの値を設定すればいいかという部分に関して難しさを感じたという意見が寄せられた。この点について、「1~5の範囲で設定して下さい」などのように、ある程度の範囲を指定してもらえると設定しやすく、統一性が生まれるのではないかとといった具体的な改善提案も得られた。

(7) 評価項目の折りたたみ・展開表示機能

図表 6-7 評価項目の折りたたみ・展開表示

評価項目	A	B	C	D
- 1. 実習態度				
+ 1.1 多様な生活の場の理解				
+ 1.2 基本的態度				
+ 2. 介護過程の展開				
+ 3. 実習記録				
+ 4. 生活支援技術				
- 5. その他				

評価項目	A	B	C	D
- 1. 実習態度				
- 1.1 多様な生活の場の理解				
1) 入所者の一日及び一週間の生活を理解できる	○	○	○	○
2) 施設の制度上の種別を理解できる	○	○	○	○
+ 1.2 基本的態度	○	○	○	○
+ 2. 介護過程の展開	○	○	○	○
+ 3. 実習記録	○	○	○	○
+ 4. 生活支援技術	○	○	○	○
- 5. その他				

評価項目ごとに内容を折りたたんで表示する機能は、評価項目の数が多いため、全体を一画面の中で一覧できるように配慮して実装された機能だが、これに対しては「1つ1つチェックした方がよいので最初から折りたたまずに表示するか、折りたたむ場合には細かい項目の平均が出るようにした方が見やすい」「折りたたみの機能はなくてもよい感じがする」

といった意見が寄せられた。

(8) 『実習評価基準』の理解

『実習評価基準』の内容については、一通りの理解が得られたようである。

受講者がこれまでの施設実習で使用してきた評価シート（養成校から提供されるシート）は簡単な項目のみで構成されているため「判断（評価）するのに困ることがあった」という。これに対して『実習評価基準』は「評価項目が細かく数も多いため評価に時間はかかるが分かりやすくよい」「詳細なチェック項目があると評価をつけやすい」など、受講者の内容・構成に対する見方は肯定的であった。

その一方で、前述した「重みの値をどの程度にすればいいか」という点や、「評価の合計点から成績をどう判断すればいいか」といった設定する値の範囲や基準に関しては客観指標を求める意見も寄せられた。

(9) 紙の評価基準シートとの比較

システムによる評価と紙のシートを用いた評価を比較した場合の利点・欠点を問うたところ、「今までは手書きだったので、修正が楽ではなかったが、PCを使うことで修正が容易になり便利であると感じた」「評価結果（記録）を管理しやすくなるのではないか」といった見解が寄せられた。

6.2.3. まとめ

上述の通り、研修の目的である『実習評価基準』の理解と「実習評価支援システム」の理解は、今回の実施でほぼ達せられた。以下、実施の検証結果を踏まえつつ、『実習評価基準』と「実習評価支援システム」について総括する。

(1) 実習評価基準

『実習評価基準』の内容については、講義を通して一通りの理解が得られたようであり、研修の実施目的を達成することができた。

受講者がこれまでに使用してきた実習評価シート（養成校から提供されるシート）は、評価項目が『実習評価基準』の大項目のレベル（例えば、生活支援技術など）で構成されていたため、中・小項目レベルでの評価の記載が難しいという。例えば、生活支援技術というレベルで括られた評価項目の場合、「食事介助はできるが入浴介助ができない」といった学生の評価を忠実にシートに反映させることは困難となる。

これに対して『実習評価基準』では、中・小項目にまで評価項目が細分化されているので、記述がしやすいという印象を持ったようである。「評価項目が細かくなったので評価に時間はかかるが分かりやすくよい」という受講者のコメントが、これを端的に表している。

(2) 実習評価支援システム

短時間で受講者は「実習評価支援システム」のログインから評価の入力、保存までの一連の操作をマスターした。今回の受講者はいずれも日常的にPCを利用している方々だったこともあるが、システムの操作の大半はマウスによるオペレーションであるため、PCに不慣れな実習指導者でもある程度の時間（研修の時間内）で操作を修得することができるのではないかという感触を得ることができた。

システムの機能に対する受講者の評価も概ね肯定的であり、特に評価結果の自動集計機能や記録の管理（インターネット上での保存）などについて好感する意見が寄せられた。

(3) 今後に向けて

『実習評価基準』及び「実習評価支援システム」の今後の利活用に向けて、検討されるべき事柄も研修の実施を通して明らかとなった。その第一は、評価の総合点の判断基準である。総合点の何点以上を合格と見なし、何点未満を不合格とするのかといった判断の基準がある程度統一されないと、利用者により合否判定（成績判定）に差異が生じてしまい、『実習評価基準』策定の狙いが全うされないという事態につながりかねない。固定的な判断基準は柔軟な運用の妨げになるので望ましくないが、判断基準のための指針やガイドラインは用意する必要があるだろう。第二は、重みの設定範囲や基準である。これも上記の検討事項と同じく何らかの指針を示すことが有効な方策と考えられる。

そのためには、実習評価支援システムを多くの実習指導担当者や施設関係者に利用してもらい、利用事例を積み上げていく必要がある。様々なケースをデータベース化することで、評価の判断基準のための指針やガイドラインの基礎情報として活用できることが見込める。

また、今回の研修では、操作性及び機能面について喫緊に解決すべき課題は見当たらなかったが、より高い操作性や利便性の実現に向けて、既存機能の見直し・改良や新機能の追加などについて継続的な検討が望まれるところである。

「介護実習評価の基準策定及び指導者研修事業」
事業報告書

平成 24 年 3 月

財団法人 健康・生きがい開発財団
